



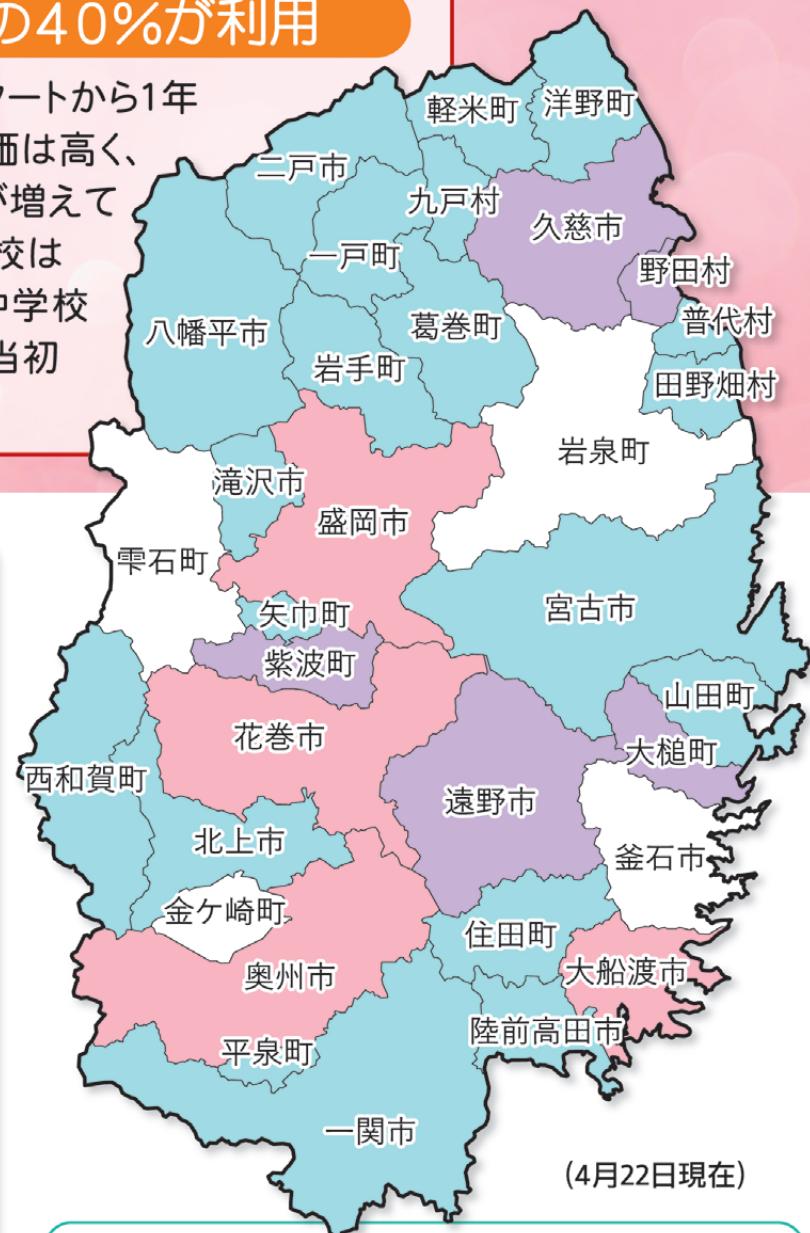
県内公立小中学校の40%が利用

「プラス日報」は4月、本格スタートから1年を迎えるました。市町村教委の評価は高く、自治体として取り入れる市町村が増えていきます。有料で契約する小中学校は4月22日現在、小学校102校、中学校57校の計159校で、2024年度当初に比べ59校増えました。

県内公立小中学校全校に占める割合は25%から40%近くに上昇。利用生徒数は約1万5千人になっています。

学校や児童生徒のプラス日報利用料金を負担する市町村は、24年度当初12市町村から、20市町村になりました。学校利用料金と児童生徒利用料金の双方を負担しているのは18市町村、学校利用料金に限り市費で負担しているのが2市となっています。

県立高校は昨年、宮古高、種市高の2校でスタート。本年度は新たに、盛岡北高、千厩高、大槌高、宮古北高の4校が契約し、探究の授業や小論文対策に取り入れ始めました。



ご期待に応えられるよう、各種学習コンテンツの拡充へ力を入れていきます。
2025年度もよろしくお願いします！

「+日報」を使った学び紹介



「実践交流会」で活用事例発表

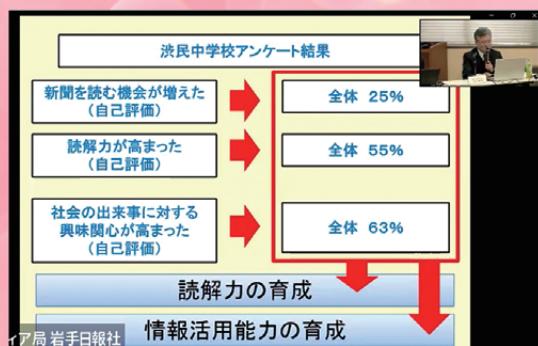
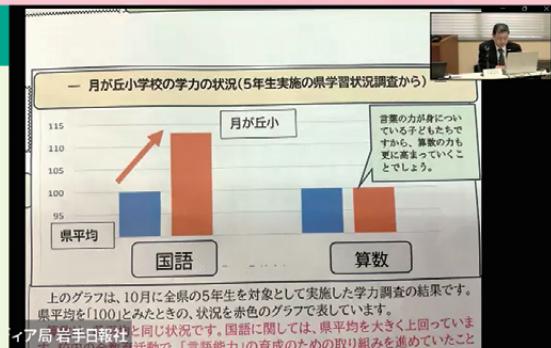
「+日報」の活用事例を学ぶ実践交流会が、岩手日報本社を主会場に2月27日に開かれました。盛岡・月が丘小の八木橋信也校長、渋民中の小松山浩樹校長、盛岡北高の辰巳大氣教諭、岩手大教育学部の早坂良准教授が、活用の効果について発表しました。(※肩書きは当時)



動画はこちら

盛岡・月が丘小 八木橋信也校長

同校では学校経営グランドデザインに「新聞活用」を位置づけ、4~6年で「+日報」を活用。朝学習を、新聞を読み感想を書く時間にしています。「児童の意識や、国語科の力が目に見えて高まった」と、児童へのアンケートや県学習定着度状況調査の結果を示しました。



盛岡・渋民中 小松山浩樹校長

「読解力や情報活用能力の向上を狙い活用を始めたが、思った以上に効果が出た」と強調。火山防災や震災・復興学習では生徒自身が新聞記事を検索して学びを深めました。新聞製作ソフト「クミハン」を使った学習のまとめ新聞作りは、特別支援学級の生徒にも好評だったと語りました。

The screenshot shows a news article from the Iwate Nippo dated February 14, 2024, page 22. The headline reads '小論文対策を通した活用事例' (Case studies through argumentative writing). The article discusses the use of the 'Smart Classroom' feature to print out disaster prevention measures. Below the main text is a small video frame showing a person at a desk.

盛岡北高 辰巳大氣教諭

小論文指導や化学の授業で、課題設定の素材として活用しています。「県内の大学進学希望者が多いのに、地域課題をあまり知らない」と指摘し、「無限に時間があればフィールドワークもできるがそれはいかない。『+日報』は地域を知り課題を考えることができる」と振り返りました。

The screenshot shows a news article from the Iwate Nippo dated February 7, 2024, page 18. The headline reads '盛岡『納豆』首位返り咲き 中華風不動のトップ、豆腐は2位' (Iwate "Natto" ranked first again, Chinese-style不动 is top,豆腐 is second). The article discusses the results of a survey of natto consumption in Iwate Prefecture. Below the main text is a small video frame showing a person at a desk.

岩手大教育学部 早坂良准教授

教職大学院の学生が考案した、「+日報」を使った授業案を紹介。防災学習、特別支援教育、キャリア教育などで非常に有用性があるとの感想が上がりました。利用拡大に向けて、班ごとに新聞を作れるよう「クミハン」への共同作業機能の追加、ロイロノートとの融合などを提案しました。